

No. 753

企業

# zoom up

ティー・シー・エス

「全員参加型経営」のシステム開発企業

(株) ティー・シー・エスは、独立系のシステム開発業者だ。1969年設立、業歴47年の老舗企業で、現在、代表取締役を務める相澤輝雄氏は、6代目の社長。

特に、生命保険や銀行といった金融機関向けのシステム開発を得意としている。設立当初は、電子計算機用品の製造販売を手がけていた。その当時から大手メーカー系のシステムインテグレーターを通じてユーザーに商品を提供するなどしていた関係から、システム開発も請け負うようになった。その中でも多く手がけてきたのが生命保険会社や銀行のシステムだった。

そうしてノウハウを積み重ねてきた結果、現在では大手生保5社と取引があるほか、メガバンクの仕事も長年請け負ってきた。相澤社長は「長年にわたって積み重ねてきた実績が評価されているのだと思っております」と話す。

相澤氏が代表取締役に就任したのは、5年前の2011年。営業を統括していた前代表の体調悪化やリーマン・ショックの後遺症も重なり売り上げがなかなか伸びなかった。

そこで社長就任後に注力したのが営業力強化だ。ネットワークを持つ営業担当者や役員を外部より採用したことで、ここ数年は売上高が着実に伸びている。また、会社の長期的な成長を見据え、新卒採用を強化、毎年4名程度を採用し、戦力化してきている。

順調に業績を伸ばしているティー・シー・エスだが、「大変な時期もありました」と、相澤社長は振り返る。2008年にリーマン・ショックが発生、その後しばらく、金融関連のシステム投資は鳴りを潜め、多くのエンジニアが路頭に迷った。ティー・シー・エスにおいても「20人程が、開発業務につけない状態となった」という。それでも人員のリストラは行わず、社員に自宅待機（給与は支給）をしてもらい、国の助成金で何とかやりくりした。

「マイナス金利など逆風もありますが、フィンテックなど新分野への投資は盛んで、IT投資の中心が変わってきています」(相澤輝雄社長)



相澤社長は「本当に社員を大切にしている会社です」と、胸を張る。

年に3回程度、社員全員参加の全体部会も実施している。社員に対して、自社の経営状況等を包み隠さず報告しており、業績に応じて決算賞与も出している。また、株主も経営陣のほか元役員、管理職クラスの社員などで構成されている。こうしたことから、社員の経営への参加意識や当事者意識は極めて高い。「我々の強みは会社と社員が一体となった、全員参加型経営。オーナー企業ではない独立系企業だからこそ実現できた形です」。

社員からも「風通しの良い社風」との声が聞こえてくるほど、働きやすい会社だ。3年平均の退職率は3%で、有給休暇消化率は80%にのぼるといふ。いかに社員を大切にしているかを端的に表したデータといえる。

今後は「3年後の設立50周年に向けて、まずは年間売上高を10億円に」と話す。さらに、「同業他社とのM&Aや業務提携などで事業拡大を図り、将来は上場を目指したい」と意欲的だ。ビッグデータやIoT、フィンテックなど、新分野へも挑戦すべく人員の育成も余念がなく、今後ますますの成長が期待される。

(取材・文/東京支社情報部 山口 亮)

## 会社概要

(株) ティー・シー・エス  
 TDB企業コード：982066319  
 東京都文京区後楽1-2-8、電話03-3815-2451  
 相澤輝雄社長  
 設立：1969年8月  
 資本金：2500万円  
 事業内容：金融関係を中心としたシステム開発  
 年売上高：約6億1700万円（2016年3月期）  
 従業員：72名